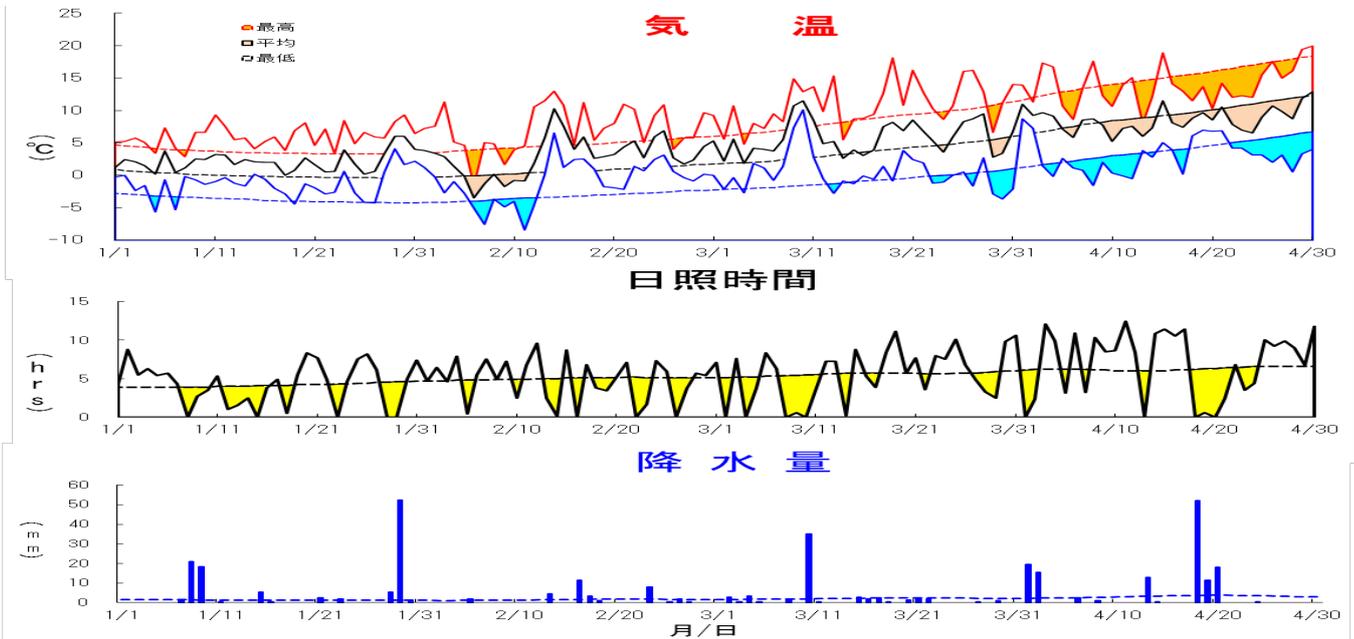


= 4月の気温平年並～やや低温も依然生育早い・適期追肥・防除を！ =

1 気象経過 (1月～4月：古川)



旬	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
4月上旬	8.2	13.2	2.2	38.5	68.9
平年差	0.8	0.3	0.1	13.4	7.4
前年差	2.6	2.2	2.1	25.0	2.3
4月中旬	8.2	13.1	3.5	95.0	65.5
平年差	▲1.1	▲2.0	▲0.3	59.9	4.5
前年差	▲0.9	▲3.1	1.5	74.0	▲19.2
4月下旬	9.5	15.4	3.4	0.5	73.7
平年差	▲1.9	▲2.0	▲2.3	▲33.3	8.2
前年差	▲1.7	▲1.9	▲1.4	▲41.5	20.0

※1ヶ月予報 (4/27 発表)

5月の1ヶ月予報気温が高く、降水量と日照は並み～やや多い。



- ・気温は、4月上旬は平年及び前年よりやや高く、4月中旬～下旬は低温に経過した。
- ・日照時間は、4月下旬が前年より寡照であったが、その他は上旬～下旬まで多照に推移した。
- ・降水量は、4月上旬～中旬が平年及び前年より多雨で、4月下旬は少雨となった。
- ・一か月予報では、気温は高く、降水量・日照とも並みからやや多いと予想されている。

2 出穂状況：(4月30日 古試作況試験圃 暫定値)

[古試：中旬区10月17日，下旬区10月30日播種]

品種	播種期	本年	平年	平年差(日)
シュンライ	中旬区	4月17日	4月29日	▲12
シュンライ	下旬区	4月25日		
ミノリムギ	中旬区	4月23日	5月4日	▲11
ミノリムギ	下旬区	始		

- ・大麦の出穂期は、「シュンライ」で平年より12日、「ミノリムギ」で11日早くなっている。
- ・小麦は未出穂である。

3 今後の管理

(1) 小麦の追肥

- ・小麦は穂前期にタンパク含量を向上させるため、窒素成分で2～2.5kg/10a程度を追肥する。
- ・現地圃場では、出穂のバラツキは大きいと思われるので、圃場をよく観察し適期に実施する。

(2) 赤かび病の防除（予察情報 4月27日 病害虫防除所HP）

- ・古試作況調査ほ「シュンライ」は平年よりかなり早く、1か月予報の平均気温は、平年並か高いと予報されており、開花期前後の降雨が発生に好適である。

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	早い	平年並

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	早い	平年並

		出穂期(月/日)	開花期(月/日)
大麦 (品種:シュンライ)	令和2年(実測)	4/17	—
	平年	4/29	5/5
小麦 (品種:シラネコムギ)	令和2年(予測)	5/1	5/13
	平年	5/9	5/19

- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなる。
- ・薬剤防除の適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。
- ・薬剤耐性菌対策のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避ける。
(参考：農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・「夏黄金」の防除は、「ゆきちから」と同様に3回を基本とし、3回目の防除は2回目の7～10日後に実施する。
- ・各品種の出穂期について、「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より1～2日遅く、「夏黄金」は「ゆきちから」より1～2日早いので、1回目の防除のタイミングに注意する。

